

1 市の概要（H30年度）

人口	64,930 人
保護率	0.59 %

2 支援状況調査（H30年度）

新規相談受付件数人口10万人当 (件) 一月当たり	9.0
プラン作成件数人口10万人当 (件) 一月当たり	5.0
就労支援対象者数人口10万人当 (件) 一月当たり	3.7
就労・増収率(%)	37.9

4 事業実績（H30年度）

利用者	就職者	うち体験就 労利用者数
3人	2人	2人

5 事業実施のポイント ～就労体験を主とする中で～

Point

利用者の自己決定を基本とし、自主的に取り組める環境づくり

- 利用者が自主的に取り組める環境整備について事業所と事前協議を行っている。具体的には、
- ①希望に沿った体験内容を検討、
- ②利用者の不安要因を事前に提示し事業所内で確認依頼、
- ③通所に係る交通機関の方法や時間についての相談、
- ④利用者の主体性を引き出すことを尊重し、行って欲しいことだけを伝えてもらうよう依頼、以上4つの点について実施上工夫している。



体験例：事務補助、お茶出し、清掃 クリーニング工場にて軽作業

3 実施方法について

実施方法	委託（随意契約）
事業費	7,337千円（平成30年度）
理由 (委託)	○生活困窮に陥るリスクには多様な要因があり、課題を抱えている者の中には障がい起因としている者も少なくない。 ○当市で障害者相談支援事業を実施している事業者に委託することが最も適当であると考えられるため、当市でその事業を実施している現社会福祉法人に委託。
事業概要	○3名の常勤職員のうち1名を就労支援員（就労準備支援員と兼務）として専門性に特化し配置。 ○利用者と時間をかけ面談を行い、これまでの就労体験を基に利用者が希望する就労の種類を聞きとり就労先と一緒に検討。また、就労体験の前後は利用者と面談を行い、体験時の取り組み姿勢や就労結果を聞き利用者の適正を判断。 ○就労体験先の候補を増やすために、就労支援員が地域のつながりを基に候補先へ赴き交渉し増やす努力をしている。
	※協力事業所数2か所（民間企業2か所）

6 取り組んで良かったこと

- 利用者の自主性に任せることで、本人の得意、不得意を知ることができ、苦手作業にはストレングス視点を交えて助言できた。
- 利用者の自己有用感が高まり、自主的に作業の能率や仕上がりを意識するなどの貢献意欲が芽生えた。